



私は乳がんサバイバー。再発して26年になります。毎年、節分には「鬼は外ー福は内ー」と祈るような思いで豆まきをします。私のような方はたくさんおられるんじゃないでしょうか。節分に近い2月4日は「世界対がんデー」です。大津市はその日を「TAC 大津市がんにについて考える日」とし、滋賀県はその週を「がんと向き合う週間」と定めて、講演会などのイベントやがんの啓発が行われます。

生涯で日本人の2人に1人ががんにかかると推計され、がんは決して他人ごとではない現在。子ども頃から「がん教育」が行われています。がんを恐れるのではなく、がんについて学び、正しい知識を持つことは健康を

「がん教育」命の大切さ伝え



菊井津多子

守る上で大切であり、命の大切さについて学ぶことは意義あることとして、がん経験者を外部講師として活用する「がん教育」が進められていま



小学校で行われた「がん教育」

す。「昨年私たちは「がん教育スピーカーバンク」を立ち上げました。1月末、草津市の小学校で6年生が寒い体育館で真剣に話を聞いてくれました。「入院中になんかことが支えになりましたか」「がんにはいくつ種類がありますか」と質問の手が上がりました。私は、高校と大学で話しましたが、「命を大切に生きていこう。周りに困った人がいたら支えたい」「おじいちゃんのお見舞いに行きます」と感想を寄せてくれた高校生

がいました。「この授業は寝ようかなと思っていたけど、最後まで真剣に聞いた」と話してくれた大学生もいました。がん体験は無駄ではない。役に立つと感じるうれしい瞬間です。

一度は「いのち」の終わりを覚悟した私はこれからも「いのちの大切さ」を伝えていきたいと思

がんと診断され、情報を探しますが玉石混交。ころも頭も右往左往している時に正しい判断は難しいですね。そんな時無料で相談に応じてくれる「がん相談支援センター」が全国の拠点病院にあると知り、早期に発見治療すればほとんどが治り、生活への影響もそれほどなく普段に戻れるという

こと、そして、がんが進んでも治療や仕組みがあるということも。かけがえのない自分の「いのち」、他人の「いのち」を大切にしてほしい。将来、もし困難なことに出会ってもそれを乗り越える力を誰もが持っているということを私たちの話から感じて覚えてほしいと思います。

国立がん研究センターがん情報サービス <https://ganjoho.jp/public/index.html> がん情報しが(滋賀県の情報) <https://www.pref.shiga.lg.jp/d/ganjoho/> (滋賀県がん患者団体連絡協議会会長/乳がん患者会「あけぼの滋賀」代表)